

# 説教 「新しい人生」

(詩編 2 編 7-9 節 マタイによる福音書 3 章 13-17 節)

2020 年 1 月 10 日 主日礼拝

大串肇牧師

「バプテスマのヨハネ」と呼ばれた預言者が、ヨルダン川で、罪の悔い改めの洗礼を民に施しておりました。大勢の人々がこのヨハネのもとに訪れ洗礼を受けていました。この洗礼は水で汚れを清めるように、人間の罪や汚れを洗い落とす儀式でした。この清めの儀式が人生の再スタートを意味しました。たわけです。ですから大勢のユダヤ人たちがヨハネのもとには訪れました。ところが、その偉大な最後の預言者が「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない」(11 節)と語りました。そのお方こそイエスです。そのお方がヨハネのもとにやって来られたのです。それは、イエスご自身がヨハネから洗礼を受けるためだったのです。

ヨハネは躊躇しただけではなく、抵抗しました。「わたしのような者によって洗礼を受けるとは……、さかさまではないですか」と。他方、イエスは「正しいことを行うために」自分は洗礼を受けるのだと、ヨハネに答え、ヨハネは同意しました。

この「正しいこと (=義) を行うこと」とはマタイ福音書の中心的なメッセージの一つです。この福音書には7回出てきますが、基本的には人間が倫理的な要請です。しかしここではもっと広く神のご意志全体を表しています。つまりイエスは神のご意志に従って洗礼を受けられるのです。こうしてイエスこそ、神のご意志によってわたしたちのもとに来られた方であることが明らかになるのです。神のご意志に対する従順こそ、マタイ福音書の説く「正しいことを行うこと」です。主イエスは自らその「義しさ」を洗礼においてわたしたちに模範を示されたのです。

ヨハネもイエスの言葉に従順に従いました。そしてイエスに洗礼を授けたのです。このイエスの洗礼は、なぜ、わたしたちが洗礼を受けるべきなのか、洗礼を受けてこそ、救いを得るのか、その意義を明らかにしています。

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

洗礼は動機やきっかけは様々です。確かに自分の自由な意志ではありますが、聖書はそれを聖霊の出来事としています。

イエスも聖霊に導かれ、聖霊の御業として洗礼を受けられたことをこの出来事は指示しているのです。そして聖霊によって、イエスはどなたなのか明らかにされています。

イエスこそ神のお遣わしになられた御子であり、キリストなのです。「**これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者**」と言われた通りです。

イエスは死に至る最後まで御子は父に従順に従い、自ら尊い血を流し、わたしたちのために苦しみました。それは、十字架を通して罪赦され、永遠の滅びから救われるためです。

わたしたちも、この神の愛を信じる時、神は聖霊を与えてくださり、わたしたちを洗礼へと導いてくださり、信仰の道に導いてくださるのです。これが聖書の福音です。

誰でも地上での命は限りがあります。弱さもあります。しかし、尽きることのない永遠の命があるのです。それが洗礼を通して、信仰によって与えられる神の賜物です。主よ、どうか聖霊によってわたしたちを導き、新しい人生へと導いてください。ご一緒に祈りましょう。